

奈良市アートプロジェクト

基本構想

第3版

平成30年2月

奈良市アートプロジェクト実行委員会

1：構想趣旨

<前提>

奈良市は2016年、「東アジア文化都市」に選定され、「古都奈良から多様性のアジアへ」をテーマとして一年間さまざまな事業に取り組んだ。中でもコア期間の「古都祝奈良」と題したプロジェクトは、奈良が圧倒的な「場の力」を持つまちであることを内外に発信し、奈良が古来、多様性と包摂性を持って世界と向き合い、寛容と共生の精神をもって最先端の文化を取り入れてきたまちであることを、アートを通じて明らかにしようとした。

その結果、古都奈良の骨格を明らかにし、奈良そのものを再定位するとともに、奈良が発信していくべき方向性を見出すことができた。

<趣旨>

この東アジア文化都市の趣旨を引継ぎ、現代社会がもつ様々な課題や事柄、今後、未来に対して、奈良が訴えていくべきこと、奈良がすべきこと、奈良だからできることを、掘り下げ考える機会とし、文化（アート）という窓を通じて、新たな価値の創造につなげていきたい。

2：事業概要

<名称> 奈良市アートプロジェクト ことほぐなら 古都祝奈良

これは、2016年の東アジア文化都市のコア期間のために作成されたタイトルである。世界遺産の社寺や平城宮跡での事業は「ことほぐなら」の響きとともに、SNSや雑誌等様々な広報媒体を通じて拡散し、「場の力」を活かした奈良の新しい事業として話題を集めた。今回のプロジェクトでも文化芸術の力で社会の課題を掘り下げようとする基本的なコンセプトは同様である。さらに再びこのタイトルを使用することは前回のファンをさらに熟成させる効果と今後の情報の拡散力に弾みがつく効果につながると考え、「古都祝奈良」を事業名称として使用する。

事業名表記例： 古都祝奈良 2017-2018

<事業イメージ> 社会課題×アート 奈良

<展開方法>

事業の展開に当たって、課題やテーマ、イベント等に合わせて、

- ①実施する時期（タイミング）、
- ②対象（ターゲット）、
- ③場所（空間）を絞り込み、
- ④アートプロジェクトの実施によりもたらされる変化を期待するもの。

今回のプロジェクトは、アートイベントというよりは、取組みの過程を発信することに重点をおく。

事業規模よりも一つ一つの事業の意味や、社会に及ぼす影響力を仔細に分析する必要がある。その上でアートを手法としながら、アートの領域を超え、まちづくりの基盤づくりに積極的に関与できる継続的な事業展開をめざそうとするものである。

例えば、・奈良だからこそできるテーマ設定

- ・ピンポイントでも刺さる事業をコンパクトに実施する。
- ・アートの分野はこだわらない。
- ・コンセプトに賛同してもらえる方々

- ・問題を抱えておられる方々
 - ・未来を創る若者
 - ・アーティストによる作品制作、奈良に期待する思いを発信
 - ・アーティストとの協働・制作・ワークショップ
- などの視点を取り入れて実施する。

3：広報・発信

この事業のポイントは、発信することにもあり、事業内容と同レベルの重要事項と位置付ける。ターゲットに応じた広報はもちろんのこと、発信ルートの開拓に努め、戦略的な発信を行う。

■一般向け活動 WEB、Facebook・TwitterなどのSNSを中心に、多様な層への情報発信を図る。

■パブリシティを活用した展開 費用対効果の高いパブリシティを活用し展開する。

■戦略的な発信

漫然とリリースするのではなく、内容に合わせたメディア向け活動や東アジア文化都市事業で培ったプレスリリースの配信等による情報発信を促す。特に海外向け広報の検討を行う。

4：実施体制

奈良市アートプロジェクト実行委員会が奈良市とともに実施。実行委員会の委員については必要に応じて参加要請を行う。

事業の実施にあたっては、ディレクターもしくはプログラムディレクターを指名して行う。事務局は奈良市市民活動部に置く。